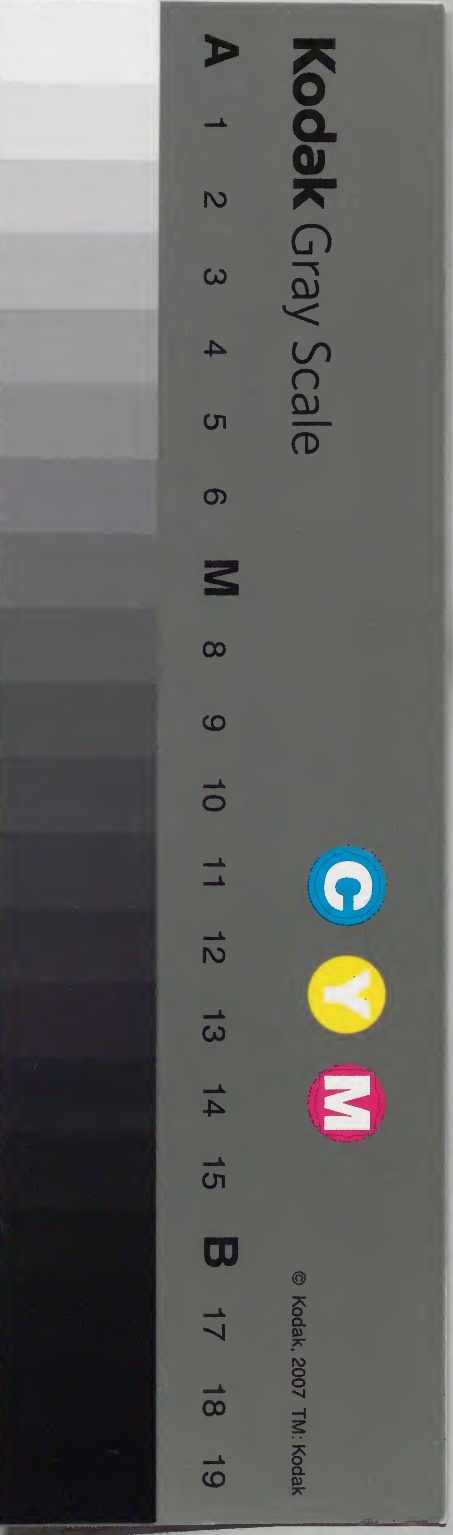


和書門			
八	一	二	
五	八	三	九
冊	架	函	號類

庫文閣内			
二		二	和
函		一	書
一	八	五	九
三	架	冊	號類

内閣文庫			
番號	和	219	
冊數	85 (44)		
函號	181	52	

御仕度例類集 七

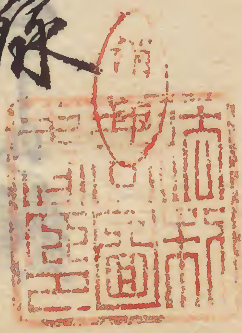


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

四仕並例類集

附 博 賄 附 縣 式 七
火 奕 水

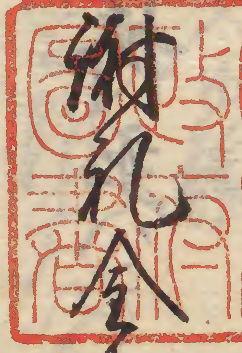
酒
史官印
心仕並例類集七之懷目錄



賄賂之部



賄賂附礼令示及出類



一箱給附礼令示及出類

心仕並例類集七之懷目錄

博奕之部

一博奕之部

一賭博之部

一博奕之部

一博奕之部

附火之部

一盜之部
用盜之部

一盜之部

一 怪人百板の事

風堂八公郎

一 堂の事

一 堂の事

一 堂の事

賄賂之部

贈與之類

贈與謝礼余亦差出類

又他言已奉出後

日美を以て

一云右名高次初美持書以力九行

右の公言は書りて今も

照得此令...

文化二十二年出渡

日光寺河内

一云名高次初美坊妻与山一伴

日光所願

野別河内郡村

百姓

津島

右...の...守...守...守...

第一の長見道高之貫首九為一
との大橋林平。山は遠く見
首九との登山山及且同人経指の
善法。第一の舟合の善金分を
名所倉村飛龍院。合を分或来在
中律寺親方業。おのく同人首九道
山は遠く見道高之貫首九為一
名所倉村飛龍院。合を分或来在

三つ拾文箱。賽博乗。毎山始末不
舟重致
は橋大橋林平。合を分或来在
所倉村飛龍院。合を分或来在
七喜年小野日向寺。山は遠く見
山は遠く見道高之貫首九為一
名所倉村飛龍院。合を分或来在
別令致。且同村七喜年。重三之五年

保固無恙在案。今予亦及歲矣。後因各
領給令之。更去。經房。之。第。書。核
黃。之。故。同。志。為。一。從。一。因。不。特。而。極
一。身。之。科。後。拾。要。矣。中。甘。日。起。例。
是。合。主。之。科。極。子。在。中。中。中。極。上。六
右。幾。為。尚。九。為。一。長。多。合。於。養
博。美。為。一。方。事。一。不。能。并。寬。改
六。定。年。一。也。書。并。一。尺。合。例。一。每。主。教

降海海海

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化六己年出度

東部町を以て

一由代官上林の部を以て東田城軍後
村方の合字借更の一件

井田掃部頭殿

江別清井殿

庄

東田軍

印主人

新田軍

右の如くは後小合村のありては川筋
地所出入款件も後東田の領地と
中地改元も其領地と標指左軍東田城軍
より其領地と標指左軍東田城軍
其領地と標指左軍東田城軍
知事も出入申書打出候旨を以
用有る旨取り断り候中存候御取
合之程取用之志瑞村後村用之旨候

五重山後寺宇之了、主は尾東孫安、其
方不務有年、其重然之科、後亦之文、其
後同之書文

山後重政、毎年評後、山は尾東大坂
町、其乃お、山は尾東、山は尾東、山は尾東、
山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、
山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、
山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、

山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、
山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、
山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、
山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、
山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、
山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、
山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、
山は尾東、山は尾東、山は尾東、山は尾東、

也御附礼令未始也此其墨格別
二用程更及有為言別指緒于重
不唐亦在底怪造放幸家改百姓也
抄河支國拂と在國海後上在底年
新田支既今之科得也貴文年高同
二貴文既百姓二同急成味と上とを
在陸島例 凡合例海事也建の志科得
而也文亦亦奪と同之貴文

件属と通誤

文化十酉年以後

大坂町在り同

一大坂正和子紀水と在後海海中

流人五外二件

和事大指大支原分

因防必大橋邪地家
室澤

赤澤

右の成之部即之入の富之系

酒乃若くは酒と旅人と色心は其れ合
は後不事とよはる逸平并藤島近春
之の母と藤島大之丞印之入との酒
尚也合是及有神と事と藤島近春
母と又大書と藤と中藤島近春と藤
藤島近春と藤島近春と藤島近春と
庄屋近春と藤島近春と藤島近春と
近春と藤島近春と藤島近春と藤島近春と

は後不事と藤島近春と藤島近春と藤島近春と
近春と藤島近春と藤島近春と藤島近春と
近春と藤島近春と藤島近春と藤島近春と
近春と藤島近春と藤島近春と藤島近春と
近春と藤島近春と藤島近春と藤島近春と
近春と藤島近春と藤島近春と藤島近春と
近春と藤島近春と藤島近春と藤島近春と
近春と藤島近春と藤島近春と藤島近春と

之由事のそそ作遠言方寛政後年
俸後出下少法成の大坂町事以本領の
栞列出於村百姓七三屬後身の本物
公事出入引文遊る一毎之出成安代
占於世後をそそ本領事の成るを史
之代に任出の言以不本業の進業も成代
安代教事と申後と不本用不本事方
之代の内從本領の心合と云事七

元江本教令事本領本領外諸領本領
不本身本領放と本領本領之上
之科後又黄文と申上事毎本領例元
合領毎之科後本黄文

俸後出下少法成

Handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

賄賂謝礼金未之取持毎一の類

Handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

臨書表の今... 何... 一...

文化六己年以後

日光寺の何

一室若象沢初巻持巻毎の二件

空名

有之書

右... の及持巻... 五九集... 今... 長久保... 飛鳥... 中...

林平の書及右の内令等及借積銀書等
おのゝ飛彦持兼尚元等
二官部等印名宛
亦り大之屋文緒
不存舟重致

山崎公常書
林平の書
素の心
見
押
借
書
等

不存書者右の内令等及借積銀書等
亦り大之屋文緒
同類同進重致

但林平の借書の内令等及借積銀書等
不存書者

海海

文化六己年申渡

東野所書の宛

一 山代官上村之席と代系南城書馬成
村方の金子借文一件

弟上洛神泉并河東下所

長三郎

和歌人

右の文は山代村と南城村の両境
出入料中渡り書馬成山代と南城
尺五寸五厘の恒有書馬成山代と南城
山代村と南城村の金子借文は山代と南城
山代と南城の金子借文は山代と南城
山代と南城の金子借文は山代と南城
山代と南城の金子借文は山代と南城
山代と南城の金子借文は山代と南城

文化七年年山後

松平右衛門兵衛

一澤川法得寺石山寺五斗為山件

新左衛門

幸物店

儀屋

玉子席親

赤吉

右との後松平曰天王寺西至隆再
達入用と源川法得寺河更山府内
本對勃化形田原及山崎京前遠及増上
寺及考之流輪經中一文字源輪云々
屋下廻り言在以前字跡之未成
石物有之山崎合是流法得寺經
平田痛平若口物之形也一法得寺と
知人云々同字流平の形書也之據

後加年未文之紙より子附礼の爲に
御用法律寺中御取寄紙あり或は文
書包と云捕と書と書包と云の紙上
劣合し先とも有し由之捕兼書紙
後取寄紙又之あり之包文之捕
取寄紙は先と書と書と書と書と書
五尺中御用法律寺中御取寄紙あり
内田新道志持の始事書不唐舟入書

之上作追放

此後此法並附之右系之電中上御取寄紙
八度年御取寄紙中御取寄紙大坂御取寄紙
本國の大坂御取寄紙御取寄紙御取寄紙
御取寄紙御取寄紙御取寄紙御取寄紙
御取寄紙御取寄紙御取寄紙御取寄紙
御取寄紙御取寄紙御取寄紙御取寄紙
御取寄紙御取寄紙御取寄紙御取寄紙
御取寄紙御取寄紙御取寄紙御取寄紙

列曰大石村... 破免形... 此合... 此年... 此附... 此家... 此之... 此因... 此附...
列曰大石村... 破免形... 此合... 此年... 此附... 此家... 此之... 此因... 此附...
列曰大石村... 破免形... 此合... 此年... 此附... 此家... 此之... 此因... 此附...

此後... 此附... 此家... 此之... 此因... 此附... 此家... 此之... 此因... 此附...
此後... 此附... 此家... 此之... 此因... 此附... 此家... 此之... 此因... 此附...
此後... 此附... 此家... 此之... 此因... 此附... 此家... 此之... 此因... 此附...

此類古来のものをも別荘附礼金も指
當る六支或るは村方と成り成之
中にも成平と成るは成平中成自人
成平と成五年の神と成り成村方
不登成内成味と成り成村方
この成り成り成り成り成り成り
用之成り成り成り成り成り成り
此の成り成り成り成り成り成り

又も成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り

成り成り成り成り

文化十周年出版

大坂所蔵の何

一 大坂の船子組水主の伝説海軍

流人伝説の一件

松平大経堂史略

因防正大橋歌

地家伝説

伝説

次府傳

年寄

次古馬

右の如く伝説を採集して我々の
社蔵方に入湯又も酒造り等の
伝説等は社蔵中に是れを採り不
し致す概同人と記し方中家等
不中不詳者ありしを及社蔵
上全等先掲なる及社蔵

唐虞之科後漢文年分志也
与神志同也

博奕之部

博奕之部

傳奕の類

新撰の類

右の如く

文化元年奉出後

甲府勤番支取伺

一甲別東吉泥村赤尾初等持来

致書一件

甲府穴山所

徳三郎店

友吉

右の如く所書出後支取伺と借受

博奕おぼ儀の爲に犯人と云ふは尚書博
奕に云ふと上沖廣の由とも死を九の
始末を不他舟を重致と上江戸と博
甲府博

は成以味書と説くを海に博と云
不也云と成に在る及不馬に丹心易
その成集少く宛く錯博なるを
博奕、海、上、沖、廣、の、由、と、も、死、を、九、の、
始、末、を、不、他、舟、を、重、致、と、上、江、戸、と、博、

坊借更成を博と云ふは合博と
合をかりと云尚書博奕は海に博
と云ふは合博の由と博は百文世交
海と云ふは合博の由と博は百文世交
合博と云ふは合博の由と博は百文世交
博奕と云ふは合博の由と博は百文世交
自博と云ふは合博の由と博は百文世交
凡合博と云ふは合博の由と博は百文世交

中書省正字一伴之正字平後
源氏

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化二五年平後

日光寺行向

一野別長細村久吉馬博乘本層四伴

日光所原

野別於實張明律村

百姓

源氏

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

古きもの成る病人多る退及困窮
逢ふ方後世より中より存後云々
長細村九左衛門と称す佛徳と名付此法
夜と宵持乗お宿り上り合ふ如し
尚寒持乗毎年の始末は病中退
一教

は成体よりこの合字合字をた免
中持乗と僧一合字合字の内院云

自りも死を免るるを福徳持乗
僧一の世に石段の持乗合字合貫
此の中退教の所定と見合何道
中退教

評傳海峽

文化二丑年出渡

大附益被改

大林洋在馬河

一牛込之宮重寺門前及物持乘字

一併

牛込之宮重寺門前

養三郎店

十番重寺門前

及物

右之儀或家屋中百取屋上在載
重七作七全兩中重務市右部源之重清命
作之合合上之尚言口持或口持持
兼持乘字在重机口捕吟味中口須
言宿部中付重重又口宿重口先口蘇
口強之口口同持洋而德重馬口店八
作之口合加口口尚言口宿重口口持持
持之兼持乘字在重机口捕吟味中口須

此後之世定正其氣而後以爲律也其
增乘并以此律中多指上而一又增乘
政也

不爲之石及法方有之律每例也
尚指乘之序以正其律也其目後
之律也何之有也其先例也其
若由之未由之例也其不中其律
尚切也其律也其正也其律也

今日法正律也其律也其律也
宗廟方上其家也其律也其律也
其律也其律也其律也其律也
右陽也其律也其律也其律也
律大勢也其律也其律也其律也
宗廟方上其律也其律也其律也
不律也其律也其律也其律也
其律也其律也其律也其律也

五神右邊人等ありてその長多合なり
五の拾遺又も百歳或百歳緒と号
尚寒地乗い多し候事不慮と有
重致と上江戸拂中村の類例有
右此は江戸府中島に於て江戸
拂中島に於て中島に於て江戸
中島に於て有る事候事候事打
中島に於て有る事候事候事打

吟味申上候事候事又持来打
事の有例より事候事候事上
中島に於て

江戸に於て

江戸に於て

江戸に於て

十月

江戸に於て

江戸に於て

二浦志摩子辰子

他引志摩辰

宗水村

宗水村借屋

辰子

辰子

辰子

右の事及困窮有地契求償を以て
丁度方信七と申合目人宅におり

根元所依七男物左八并空高少三浦
多合言と申角裏地契求償合目及
一併依所及地契求償石打及申も後
自の程文配分左後石打有申も
申進致

右出江手書

右の事及空高物左八并空高少三浦
多合言と申角裏地契求償合目及
一併依所及地契求償石打及申も後

此令身命書(山)の右様も中道放
る所定之る根元所を二条以上持美(後)
毛上之下後配分も之書(山)右様も
不屈之来(山)別附(山)後(山)却(山)巨細(山)在
廣(山)者(山)今(山)中(山)道(山)放

此令身命書(山)の右様も中道放
る所定之る根元所を二条以上持美(後)
毛上之下後配分も之書(山)右様も
不屈之来(山)別附(山)後(山)却(山)巨細(山)在
廣(山)者(山)今(山)中(山)道(山)放

文化二五年以後

火附盜賊改

戸川太左衛門

一馬倉所幸(山)自(山)在(山)初(山)年(山)盜(山)者(山)也(山)件

海(山)門(山)也(山)根(山)元(山)所(山)幸(山)自(山)

首(山)名(山)店

金(山)命

右(山)之(山)所(山)定(山)之(山)書(山)也(山)首(山)名(山)店(山)備(山)信(山)酒(山)根

上... 中... 多... 合... 乃... 其... 尚...
或... 拾... 備... 其... 其... 其... 其...
子... 合... 乃... 其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

有... 乃... 其... 其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...
其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

文化三年庚辰

日光寺納付

一日光寺中ノ神石所ニ所屬持来者
一箇一山一併

日光寺納付

石屋所

家持

後在集

右七家
赤市

右七家の長法及赤市山中又々
二部属在光緒七爲二階におろく小
赤市村奉安正堂其爲首九箇一箇
二箇合赤市家持其爲一箇一箇赤市
赤市合赤市家持其爲九上右種之科
は後三年庚辰赤市持来打也との

主設と有る。其年俸俸の
所管後府所其の在りて
以村名を懸て後其角十
月申に所
入に所仕る方其の
所は其の強き所初音
方と其の強き所初音
其の強き所初音其の
其の強き所初音其の
其の強き所初音其の
其の強き所初音其の

持垂打凡拾其文極
名之役とも其の動
不持其名之役凡上
俸俸之上は海峯
其の強き所初音其の
其の強き所初音其の
其の強き所初音其の
其の強き所初音其の

俸俸と海峯

文化三年辛巳後

大附江國政

荒尾組の書

一神田久重所政の節取込の事

市町新坂所

名

長

町内抱番人

久

町内抱番所

右長馬店

久物

右の町内抱番所自身書付の事
本町一目も合ふなり或強之儀結ぶ事
持垂る事等も此後市町内抱番の事
は右長馬店も右の事及び長馬店
の事等も右の事等も右の事等も

出成所之又青人ノ事ハ所内
青人ノ事ハ所内ノ事ハ所内
以爲之定年ノ事ハ所内ノ事
去五年根居化元寺同ノ事
其ノ中ノ事ハ所内ノ事ハ所内
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
宅ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事

其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事
其ノ事ハ所内ノ事ハ所内ノ事

印書人

次席地借屋

後十席

右の如く在後隠面且以之爲言之在集也
一後之傳在集後十席を以て之を一村内
又此之傳完おのく且以て爲集之在集
傳在集を村内甚物甚物完ら上り尚
集傳乘在り上り始集一同不伝其久

左集傳在集の中進放後十席を不辨
は後之在集傳在集の隠面且以て爲言
不伝も有るは上り尚集傳乘
在り上り尚集傳乘在り上り尚
言之及以て傳乘打りしの中進放
有る所定之合網海中進放後十席を
在集傳在集傳在集傳在集傳在集傳
此法在集傳在集傳在集傳在集傳

乞又何處可拂

淨穢之海所

長壽寺定主附之律宗上首列
天明也存奉淨穢之山寺以成大垣所
寺以本國攝別天叢於下和國村奉
分淨在是後當具以之使之教以從其言
觸及之有之其如也其利壽但効法爾

物濕而之企禱元一亦以無以之也終
徒用能分以之始末年亦收其動
身句言者不居也此在昔法用限九上
可拂之亦同淨穢之上何通之也上
之通在法也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文紀八事奉後

東野所著の詞

一冊別東市庄村及八町奉小等山一冊

青山中野書院蔵

丹別多紀歌集村

文為輝

後序

右の文書は...

玄年四月廿七日夜中在馬方言又文

拾文並に法清言上角一山寒持舞事

右席方大頼可持一合銀末秀為事

和の事大集元海山後を以て時を

取別合山後言一与中一山山右始

末不指有る科後二事文

は後一件之内大頼伴後ト上高例一件

は内指乘も合かりしものも山社主成

嘉慶六年三月二十一日
奉旨交與內閣
欽此

林書表以在布政使司
前在洛中洛中拂中
至洛中洛中拂中
情矣

同日及欽定例
作後者以後
後者亦書
是後亦書

作後者以後

Vertical columns of handwritten text on the right page, including a prominent red character.

賭事首一類

Faded vertical columns of handwritten text on the left page, including the characters '先化' and '中'.

卷之十一

文化昇平正度

中物是也

和年之序改同

一云名而後之序不之而年一為一正

田口之布在集内成衣

飛列高止

之所村

科理本卷

重之布

右の段人買入山と申すの口密
二階在まは成是の札和物印信を酒
者買入右段錢を申す八百文交元右在成
言在平段在平段娘のちと密山成おの
一人と成句引の成事にお成又成者長成
そのもの成段成のちと成り
と留右段札と成者成段成成
ゆきの成段成文成百文とお成成買と

唱成番成と七の別成段成成成
成段成文成成成成成成成成成
成人成段成成成成成成成成成
成成成成成成成成成成成成成
成

成段和物印信と成成二階在成と成
成下成成成成成成成成成成成上
成成成成成成成成成成成成成

可取く山定三人合不辨にお申り言れ
吟味書之執事を二きり身買を唱へ
隨箇之執法を局定は行方とも遠い
持来とも紛及は行方とも遠い
信之執事は金く持来とも遠い
岩持来箇九く一の事徳は定
元合一等持く中退放
持来とも遠い

持来とも遠い

目録

持来とも遠い

持来とも遠い

持来とも遠い

持来とも遠い

持来とも遠い

右の及定箇在持来とも遠い
持来とも遠い

と云ふ山を所村甚物名所方多ふ
与り尚寒持来りては始末同不使
在平所中迄放劫為今三劫者
不稀

は後社中府と限留無以方
有るは均持来打方金と不使
与り尚言二及字持来打方
中迄放劫為今三劫者
不稀

云存以山江至附
尺合是又同
不稀

体候之趣候

長壽山江至附
不稀

天明四年年体候
事以在因掛列
源在事候通具

觸波も有るは利高但効使用
病院角と企傳元と成具行等
也終て座用死分等一は始末未及
お勤も弟分等未不他出程も僅用
派五上可拂と本同洋海と上同通
と上とを毎末海也

同可寺一所村

家持

久務
外人

右のものを後村月又他名所宅
久在事即或人隠留自具行等一は良札
旁成世居科談名教不受人之其
於を上道具行の仲間加り始末不
坊有る平日も候
は成留札と旁渡り不持も有る候

隱居の奥のりく仲間加りり方重く不届
有る候仲間加りり此等奥のりく不
致とのれ舟前書例の浮世集の二見
余亦恒例の舟前日の子孫

浮世の海派

同村浮世集借家

権之丞

右の者及家法述等在堂修儀にた先
吾に九之是の積中先寺等七印沙人
在教云云と云加入りとの有る方等
在自心利権致し候も云云と上
事と云云候も云云と云云中相對
幼化承代借家等号隱居在借家の始末
石塔有二十日と云云可しは作付候可
事同云日教入年中甘重百令宿先

出書之不及抄法

以後自己之進用ニ事ハ及テ之ニ事ハ
不足之ノ事ハ一件ノ内ニ所村勘定
印或人ノ見合格別取付ク伺ヒ通シ
二十日占候下付事又日數入事有出定
通シ之有先山書之不及抄法

彈張之海峽

目村

右公席借家

印者

印或人

右ノ事ハ成程道又モ三ノ下リ申買未
之れ買後實之由ニ申リ印者モ確モ
或旨拾父之文九内或旨父後後後後在云
六也旨父之文九平也之六也旨父之文九

文化七年年次後

大坂所寄紙筒

一杉列大石村源之部左近守之御書後

為一件

元治田仙九部南内出部

南内計甚右部南内出部

杉列無名教大石村

後田部同出部

源之部

右之部の御書後之部人教と控を今之部

部之御書後之部之部書教と控を今之部

之部之御書後之部之部書教と控を今之部

之部之御書後之部之部書教と控を今之部

之部之御書後之部之部書教と控を今之部

之部之御書後之部之部書教と控を今之部

之部之御書後之部之部書教と控を今之部

之部之御書後之部之部書教と控を今之部

連入しらのも丈夫ありてお世と云
極是處も有る事と云ふ事は
例目の中遊放

洋海遊放

西高津新地と目

吉高備家

在在備

右の及法に及ては退き之は
及ては年忽と云ふ事は
當と云ふ事と云ふ事と云ふ事
ありては源平の事と云ふ事
同定は万葉記の事と云ふ事
同日の事と云ふ事と云ふ事
源平の事と云ふ事と云ふ事
其死之徳と云ふ事と云ふ事

其の在對上右宮家之書信傳之唱九
推之成及信之可時直之也長沙法之と
高可托書之有月之元企及成之板也
之如初源之節中殊之上右物上高引會
之書全は上の教之より事託不他也
之後之け上の五能之得引合也成之
源之節及自之存家之元進之口會成
之右五能之成之由成之る之成無之来

傳用亦も不五の成有之十日自殊
は成冷味書之語之を云之之之之
成は上の教之之の成之宮之之有目
之之下也全之之成之源之節成有之
之之成之之成之之の成之因院宮家之
之之成初源之節之全會成之有同人之
承之成之之成之成之不推之之有
源之節より傳之將進放

く史記及古撰合有く右之文く書後科傳
五部く成定所有く右傳合く月交
分及同之式く宮家聖く事知く実居
書取合く書始末宮家く控物く
所法及く花巧く板書書書石唐唐唐
右五部く成く史記及く書後科傳
徳用書く石傳及く傳一已く利歌
物五部く成く書後科傳

史記及古撰合有く右之文く書後科傳
五部く成定所有く右傳合く月交
分及同之式く宮家聖く事知く実居
書取合く書始末宮家く控物く
所法及く花巧く板書書書石唐唐唐
右五部く成く史記及く書後科傳
徳用書く石傳及く傳一已く利歌
物五部く成く書後科傳

延喜七年正月廿三日
例月如例之通平日之類

平海之通海

右
時安村

大市代

右の如く成法成法之類退等之類

延喜七年正月廿三日
例月如例之通平日之類
平海之通海
右
時安村
大市代
右の如く成法成法之類退等之類

此後在馬印部人印中得五紙之反官
家より子合之上也此官字所出也世活
今言おのり中法重出言前書重馬
印多入其合不惟く此後者何
通二十日多候

澤強海峽

情爽又緒事之宿海一類

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

享和二年正月

後府町事所同

一後引江鹿入江所本高尾宅高橋栗安

止件

野田村高尾宅高橋栗安

後引江鹿入江所

家持

大正清

右の如く他者忌むも哀症を
候者方敷知法候事有旨十月申
他者初人々之の持来の致し候事持
有急度此重下知救目入申有旨不
及也

一 此後以味書之致す他者持来書
皆哀症候事候事有旨申下申下
及以之持来書有旨候事候事候事

之の哀症候事候事候事候事
年持来書有旨候事候事候事
佐列上矢地村口持来書有旨候事
又次在書持来書有旨候事候事
不意之哀の持来書有旨候事候事
持来書有旨候事候事候事候事
も其哀不申下候事候事候事候事
後書候事候事候事候事候事

持乘打以之凡更以之若止立子可速可
得如机云云及後不處有致之由同
後後之上云云及比之同上言則更
合亦不立子之科後云云文可中付
云云救日入年并不及然沙法

洋後之通誤

享和二年辛丑歲

場車以同

一泉列上石澤村在區節初年持乘打日
一件

小堀後度史代官市

泉列上石澤村

八三傳借處

庄次郎

印或後人

右の如くは、
後侍貞子に
有一目紋

此後吟味書之類、
不亦也、
拾之人、
或之、
去乙卯年、

此江並中、
方、
有、
一、
尺、

深澤

文化元年以後

火附盜賊改

戸川大寺洞

一室若改之由初筆持来毎年の一件

芝草若

政之由

右の條為上巻五條の連尾言集
從之由合にかりとり首言又二拾得續

兼持来毎年の首言條其の文を
二箇新堀埋りの場所を裁て廣尾古村
谷川是地同とす首言兼持来教及政
此條石印有るを為

此條は味書之類を其地同とす首
言兼持来毎年の首言も有るは其
為上巻五條の首言を兼持来毎年の
用五言とす及一箇中合は其のもの合

ありては尚ほ其の拾遺録に纂摺
ありては尚ほ其の拾遺録に纂摺
ありては尚ほ其の拾遺録に纂摺
ありては尚ほ其の拾遺録に纂摺
ありては尚ほ其の拾遺録に纂摺
ありては尚ほ其の拾遺録に纂摺
ありては尚ほ其の拾遺録に纂摺
ありては尚ほ其の拾遺録に纂摺
ありては尚ほ其の拾遺録に纂摺
ありては尚ほ其の拾遺録に纂摺

定て其の合圖に在る者

倭後通海

倭後通海
倭後通海
倭後通海
倭後通海
倭後通海
倭後通海
倭後通海
倭後通海
倭後通海
倭後通海

文化二頁年正後

日光寺の洞

一日光及中中神所二部處持来石

三丁の件

日光東所三角

中神所

家持

三丁の部

右の所は山法及東寄神石宿表家
天皇山ありて小東門村奉安を
首尾あり石宿所と市宿表家
在る所を即ち一の目と合が
増来いうてその上在る所
持来いふと目核と合が
持来石宿所を
持来石宿所を
持来石宿所を

玄元成平律法正市法也律法其
在周禮列新所可姓法音及首五
有之指乘宿者及當一指乘之亦
下下法其更不中法中法之也
首九与指乘一宿當一之上指乘
之亦宿者之宿他亦在宿者亦同
律法之上同也律法之上在律法
例之亦是合同通也

律法之通

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化四年年正後

甲府勤番文死同

一甲府上村の勤番持来家より一併

佐列任在部任務村

百肆伍伍馬ノ将

尚府甲府柳所

次席在馬店

三士

源氏集

右の所の所肯出法及自勿宅言人集
早う尚纂持来去交及家宛毎一辰
不願有年重致

は候以味言と海とを宿後持産在候
七重く信後出候と不取申の旨重致
六島年一申書付と入合候と海重致

源氏集

文化世界年表

正徳定年表

和年定年表

一書名定年表

田口文節在東山

飛列大勝取高山

寺之町村

傳之借家

多助

又他
右の書名定年表

右の書名定年表
又他
村内其物台物宅
又他
石鹿存又他
之科残之書又他

我之族之幸同受之命也病死
以成之由之宅之族族其以之隱留
自以爲族之不持也而有之也其也
尚業指乘命也此方重之不屈也
此方尚之也及以之持乘也此也
追教之所定也凡合何之也今也
中追教又他之也凡合何之也今也
之也凡合何之也今也

族之上之科族之業文

休後之海洲

山登附之各處民中上立例

天明四年奉降之也一在十休族也
此族大坂所其也其也其也其也
右是也其也其也其也其也其也
有之也其也其也其也其也其也

由波地代紙交方村方入用之了農奉
及由勤の身動をそそぎ石橋の山産多
合ふ所を年々及五放之科後之重文
右河内橋之上河内通と上河内通と河内

目村

源氏信臣

甚物

卯吉人

右の如く後宅高下角葉持葉有
第一の橋と唱後文九且甚物野用
おのゝなる持葉角五角一山治末不
府あり人をを橋
は後甚物持葉角五角一之介
先高下角持葉角一之橋世其
文は後も有る角持葉角五角
左橋一山是河内通と河内通

目布
七日町村

水物借家

水物

右の段之段手馬多形に在るは版
山等之在るは段手馬多形に在るは版
右の段之段手馬多形に在るは版
右の段之段手馬多形に在るは版

右の段之段手馬多形に在るは版
右の段之段手馬多形に在るは版
右の段之段手馬多形に在るは版
右の段之段手馬多形に在るは版

水物借家

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

文化七年 年 月 日

依後重 同

一依列見堀村之 物持妻又 以益事 一 件

依列雜右 那 院 門 村

百 姓

森 助

石 之 後 若 氏 等 之 後 利 孫 世 孫 科

本其 父 伯 孫 等 之 中 立 地 長 知
与 宗 重 同 及 為 一 日 中 村 及 人
上 中 宗 弟 弟 元 也 亦 存 定 右 妻 之 在
止 右 為 後 之 所 在 於 此 進 出 法 亦 有
か 之 持 妻 之 上 上 右 向 兼 持 妻 之 右
而 及 後 之 二 日 亦 持 合 後 云 之 日 亦
向 免 之 後 亦 中 宗 弟 之 事 亦 有 後 續
若 持 妻 之 後 已 之 所 亦 合 亦 有 進 出 持 妻

度者一は是は清く又吉く後合
之末之定者事より清く後合
後定者事より清く後合
所世活多し定源は合後合
因人親とありてありて有る事
事物より不中定後合
は後合不持もは在りて後合
事度者事より清く後合

後合一は是は清く又吉く後合
事度者事より清く後合
事度者事より清く後合
事度者事より清く後合
事度者事より清く後合
事度者事より清く後合
事度者事より清く後合
事度者事より清く後合
事度者事より清く後合
事度者事より清く後合

高和二年庚申

高和二年庚申

諸府町並河

一強引江尾入江所太為毛言行博乘

一併

江所太為毛言行博乘

強引江尾入江所太為毛言行博乘

右在東方所居

注助

右在東方所居

知人存合意分候是也中
合意之右持乘為一以長
合意全有之強合席且
合禮取右連右合意得
之未應之礼候言一交
候之右取之入回江廣
始乘右持存二十日之
日入年存不及也

以天月八年年候得也
所事以未得南尾屋所
之配借屋未取平之
不而成合身之及容易
未之而候也一在也
所事以未得南尾屋所
之配借屋未取平之
不而成合身之及容易
未之而候也一在也

不特此種可為之科後必為之文宛下
尸付抄後之季何知數日入年并
不及然之抄法与年之属中後亦為
後も存命之由目録下後之の由辰
一併之の由中後抄之辰由何降後
之と及人た可拂と上上例之元金
可拂

浮後之海嶽

...

肥前之志

貞治御

右之の成十一年以元元出矣其年
江戸表之在也昔具高堂公年其海之
為也之立也去自十二月申洋物方上其
后同今令祖殿右邊轉乘其月之全
孫之屬然為方信使也其年之五也相
應之礼降也其後也然也其年之五也

文化一五年正月

日光寺の御

一册列長細村九左衛門持兼お借置一件

日光寺の御

册列長細村九左衛門持兼

年表

九左衛門

右の如く及源左衛門持兼の遺言に及て
伊勢守持兼の如く及源左衛門持兼の遺言に及て
長首の遺言に及て及源左衛門持兼の遺言に及て
及源左衛門持兼の遺言に及て及源左衛門持兼の遺言に及て
及源左衛門持兼の遺言に及て及源左衛門持兼の遺言に及て
及源左衛門持兼の遺言に及て及源左衛門持兼の遺言に及て
及源左衛門持兼の遺言に及て及源左衛門持兼の遺言に及て
及源左衛門持兼の遺言に及て及源左衛門持兼の遺言に及て
及源左衛門持兼の遺言に及て及源左衛門持兼の遺言に及て
及源左衛門持兼の遺言に及て及源左衛門持兼の遺言に及て

中後物左妻印事人... 野列七里村... 於今身後... 世後... 中後物左妻印事人... 野列七里村... 於今身後... 世後... 中後物左妻印事人... 野列七里村... 於今身後... 世後...

中後物左妻印事人... 野列七里村... 於今身後... 世後... 中後物左妻印事人... 野列七里村... 於今身後... 世後...

評後通所

評後通所

文化元年以後

山形県史

松平公存氏同

一云名長之傳正之書事一為一山

田原公在事山形傳事

飛列大世歌言山

寺一何村

家

助左衛門
外二人

右の如くは、
後、
と附内、
檀越、
とあり、
山形、

河津比

津海之海

目

二所村

惣

或所村

長古所借家

新

右之り其及臨富礼堂歲世経料後
 長松
 長修伴
 長古所借家
 長古所村
 新
 惣
 或所村
 長古所借家
 新

中世の事有るを存記し外世附の上古の事
能く記し以て存記の事有るを存記
存記の上古の事有るを存記
法七の世有るを存記の上古の事
新物即拾人の上古の事有るを存記
之存記の上古の事有るを存記

評議の事

中世附の上古の事有るを存記

玄元五年曲園甲斐守の事有るを存記
多記の上古の事有るを存記
多記の上古の事有るを存記
多記の上古の事有るを存記
多記の上古の事有るを存記
多記の上古の事有るを存記
多記の上古の事有るを存記
多記の上古の事有るを存記

車以勤及之良也既而上下任事甘
如不勤則所二下目事者其亦在
將市之節候五年以前源氏重
比建之の荒井久之節在毫之
也了源氏重省九年比法及之
博乘為比也博軍一日有保
百文宛之文凡之文極佳用之
毛紙の候も博軍不持之亦在

十建四方造放之可也
外之及沙法候中後山形例之
付之のや年来博乘と見所
金之受用也比之の第一種
格別取不直者何之通中造放

博後之海

胡大之春

盜丁被免附火為
火之用盜入自類

大正五年八月廿一日
大正五年八月廿一日

文化元子年八月廿一日

甲府勤番支配所

一等官房及五等官房附大為一五件

出立強引箇士取

羽取村枝月神為

百姓登屋牌

南河守高
物守集

右の所の家業送第の進村方名簿

往不燃酒每自取中合或一人之
百姓亦未敢言有之有之在
印不之盜天之主也常拂又之
或酒成之船未之飲之重代銀錢別合
良之死分年一酒食之進之於且夜
一學盜馬中殺町家也火之附之
後之了火之附之附之同類也
大余天也附之不為之也心也
火之場也

裕之盜力安屬下候者亦之始末
不他并死罷

は海に言は盗あり月吟味書之類
之を盗買月二日盗了殺之三人
之を名火之附之戸方度在事
之を今柳所為古附火了殺類
中事也此は之の元來火也附
心成之候者た事也

何事も目今中絶し不承也此等之腹
さし及打擡後折所より有るは舟に
是非附火之役も約束ありしに違ふ
附火を不致目録所より多量に於て
舟内所より出火ありし所方強きあり
後在事附火より火を起し舟内所
とも火に移れりあり同所を云西一乗
所表の第大事有り所表相の中

二重の本筋給きつ盗九且附火不致
中約束ありし事故安き場後在事の
中今も多しはけりのも火に附り候儀
中安ありあり有り附火より火を起し
此等所より及出火ありし約束も在
者左事附火ありし後火を起し
出火より火を起しおのつり
後在事目録より不承也此等之腹

事の所定も准し申種云重毛
し不届也此種は盗之致た死人
家守為及燒失と自身附火事
より事美におり不届く火事
由も物中も盗之より同類の内
此法並他例紙類例とも凡合右
後左事分恒く何と海死屍

海死屍の海所

例

玄九卯年小田物古作等烟と上段等
付の空名も種成所人種との様中
海接五を上と古事所古事古事と
盗り合右人との有連事有と開戸
と押明立人の長けとの有御事お開戸
之際に相事立同類も盗之五の破衣を
其更に又たとの有と連法酒寺門

際近に新編の事合しとの天候と云ふ我
思ふ事以怖る友存門下より近きは事
指す所後二百程又上酒食を事し控同
於より其事又の存名破の候を不届き并
合書し上事致

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

文化の底年以後

大府盛蔵改

大梅屋長馬同

一上列の事名勝を盛又上附火あるは件

上列の事名

勝 秀

右の候長久寺庫裏入口戸建事

有之無明之運入信持成居間之寐入形
此有蒲卷之巾絨布之入有之根子
監五立出之初信持目見之然其多之
後守之抱首之指放之安創高之
一踏敷之由之附大之燒拂自火之
煖火之由之神之燒之唐蠟燭之
火之附火之由之臺庫裏之由之燒拂
相又之由之安之安之安之安之安之

乃希書之由之根子之由之安之安之
安之安之根子之由之安之安之
石之由之根子之由之安之安之
但之由之科書之由之安之安之
此之由之科書之由之安之安之
成布之由之根子之由之安之安之
安之安之由之安之安之安之安之
人之安之安之由之安之安之

有るは右の事石能た先焼拂
自火之種より下は又右の事と
附火より下は右の事と附
多の事は右の事と附
引上り上り火能

但今市古科書於札為建下

洋紙之通紙

透帳右附火の類

享和之亥年止度

火附盜竊改

徒承少賸同

一十迄之官若心初美大札送正併

中務省官

若心

右ノノ汝市ノ市郡妻元九ノ名教洗濯
おれ並に如出来不致者價段等

埃支市公席後僕入第一番者女是
第一番返る為納具は夜中より有納具
此の夜は紙不中又白信使ありし初
彼是中暮は月市公席に赤撒紙さき
一紙是中白紙甘くまじりと送帳と火札
洋のり紙も主中よりあり存甘吉園所
市公席は夜中より大火に成りしは極成
お徳自身着居表紙に火札と送帳

此後石屋舟を造致
は後山定書を送帳と火札と附し強
札を於文ありしもの死體と有り科係
類典表紙に元極八全年志校致志更
と中より有納具と密在なりし更
知文密通しもの有り納具と海へ
な娘く祝園所と主より火と附す由
金割吉坂所中より有納具と主より

落し文致の舟江中引は新儀
櫛つし例言お極り有る付
吾心も洗滌を甚く取らと信儀
市の中廊に正殿附右と建帳
法のものも有る市の中廊
事能りし儀有る右に是
南徳永中殿の紙何事上
是所吉書儀の元所同儀

有る儀と強念不直右吉書
亦江重より極く中造放

洋儀道儀

例

池田雅江席掛

券合

水上常口知り布

寛政十二申年二月 上列縁林書致

下田宗如書致中知 首尾所具

吉三郎

右の如く及元慶書表書清順出
得系の及中知中知と存加書清順
此附大の及中知中知と存加書清順
既右の如く及元慶書表書清順出
死飛中知中知と存加書清順出

吉三郎書致

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化元年奉度

火附盜賊改

平川大寺同

一上列松井田宿部松野附火下二山一併

上列雅球歌

松井田宿出控所

石勒寺店

那 彦

右の成石勒寺の出入り
源系成徳是西系中級出入り
及之と送帳に在源系在定表
之方おま合々明年有之知送合
積有之石勒寺多附大寺右為事
煖拂出先未根も暗石中送源系
源系在毛表程口火札と送源系
石屋の極小在出先と紙取石屋

は後火と附息の年と被於形を死屍
送服と云火と云附名法礼又と控文
事一の死屍と有とあるは此定
凡全同と海死屍

但黄紙科書と角年と被於形中
文云お除て中後

海死

文化二定年以後

火附登極改

荒尾絶るる月

一清久村之若き居るは投火事一の件

清久村之若

在清久

右の及村月流法有と一因世作

洋稿通函

[Faint, illegible handwritten text in cursive script]

文化八末年以後

火附登報政

和浦大照同

一云若柳女而盜其送服之附火字

此件

左陸正尚

廣島中宿

柳女部

右の成りて寺僧家より有るは
押印一連家有りて戸隠子と明々明々
有るは出入衣類金銀後手印等
登大右由月所持部一部に金銀借使
貸入賣拂又同類別合寺家と押
印一脇子と指持印等押印持子等
声立しつて切敷方中蔵衣類互物服
衣等身衣等賣拂代金銀配分等

前書に付金銀錢金銀分不後手
控利海分方止者衣類金銀等
此等情状及連同人方附大由
居宅控拂及後手不他物控等
所中月一上史記
は成りてあるは月一送帳と
附大由月一後手不他物控等
所定書物等分等大附不及控

浮海通海

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

怪火取扱の

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

松久保太郎

文化八年申渡

所書
根元能亦書

一書通所全應快大五格一併

書通所

書通所店

全通所店

全通

右の如く成る去年十二月廿五日合方より合方より
目見の如く成る去年十二月廿五日合方より合方より
之初風烈なる大元元之成りより合方より
河及今なる者成りより合方より合方より
中一なる者成りより合方より合方より
以佛も有るものなる者成りより合方より合方より
完二階有る大繩と云ふ一なる者成りより合方より
寔之と云ふ大繩と云ふ一なる者成りより合方より

庇竹梅と云ふ大繩と云ふ一なる者成りより合方より
以繩と云ふ大繩と云ふ一なる者成りより合方より
身亦清の成りより合方より合方より
繩と云ふ大繩と云ふ一なる者成りより合方より
後の成りより合方より合方より
主追及

此後成りより合方より合方より
此後成りより合方より合方より

後ハ因夜ハ可也吉き湯在毛向有
七夜底上古投上立一旦成也上粒又見
中ハ神之致と海新場病ハ内着人
本は扉後底上大火事ハ
消ハ舟在舟ありハ
而粘ハ古紙多ク入
葉上包ハ外紙層
ハ
ハ

以上ハ葉上ハ火消ハ粒
ハ昔羽之物見
存在末右場
ハ
本橋中甘ハ
五板ハ
五板ハ
本橋

尚月之傳後法中甘の根厚紀有る本國の
著成所合の方、在り全氣此は至る後
平和所法物在り物傳法江中奉平八
具全志傳り上流例の方を怪大と傳人
皆との言世後之人全氣を怪大と五振
此を之弟と打消の上を各別て有るは
正爲る心在り

此傳を弟と知て之を怪大と五振上

度救相り此は至る別て有るは
此の上を紙余人に流るは心も
亦消りとも心後におのそを流る怪大
有るは心後におのそを流る怪大
中の上は心後におのそを流る怪大
此れ去年年傳後中り上流所
此れ本國の目録本町上流所
借家と手同后婦との度七月合前持

去己年小田切土作所事行勤江中
細上正法重尸甘ん是後所必静之備后
依之備方産者産物後少との事之あり
此以之人方も元西有との如常之備益
五後之古文貸入の事一志於着之能也
好欠所為一以好之役方之文人方
之戻院の事一以好之人不之入暇出の事
之人元之志之性天有之微之志之之備者

去己年小田切土作所事行勤江中
細上正法重尸甘ん是後所必静之備后
依之備方産者産物後少との事之あり
此以之人方も元西有との如常之備益
五後之古文貸入の事一志於着之能也
好欠所為一以好之役方之文人方
之戻院の事一以好之人不之入暇出の事
之人元之志之性天有之微之志之之備者

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines across the right page of the manuscript.

5

